

置戸町 防災ガイドファイル **保存版** について

本ファイルは、近年増加する記録的な災害により日々更新される防災情報に対応すべく、置戸町の防災情報について、町民の皆様ひとり一人に、まとめて頂くためのファイルです。

最新の防災情報が町より発行されましたら、こちらのファイルにある情報と差し替えて、とじてまとめて下さい。

防災情報の他にも災害時に必要と思われるものは本ファイルを活用頂ければ幸いです。

置戸町役場 総務課 防災係 0157-52-3311（代表）

令和4年9月現在、本ファイルに掲載している情報は下記の通りです。

防災情報

- 自助・共助・公助について…………… 1-2
- 住民がとるべき行動…………… 3-4
- 風水害－洪水・土砂災害…………… 5-6
- 雪害－大雪・暴風雪…………… 7-8
- 地震－突然起こる…………… 9-10
- 地震－揺れやすさ・危険度マップ…………… 11
- 防災情報の入手方法…………… 12
- 防災メモ…………… 13

防災マップ

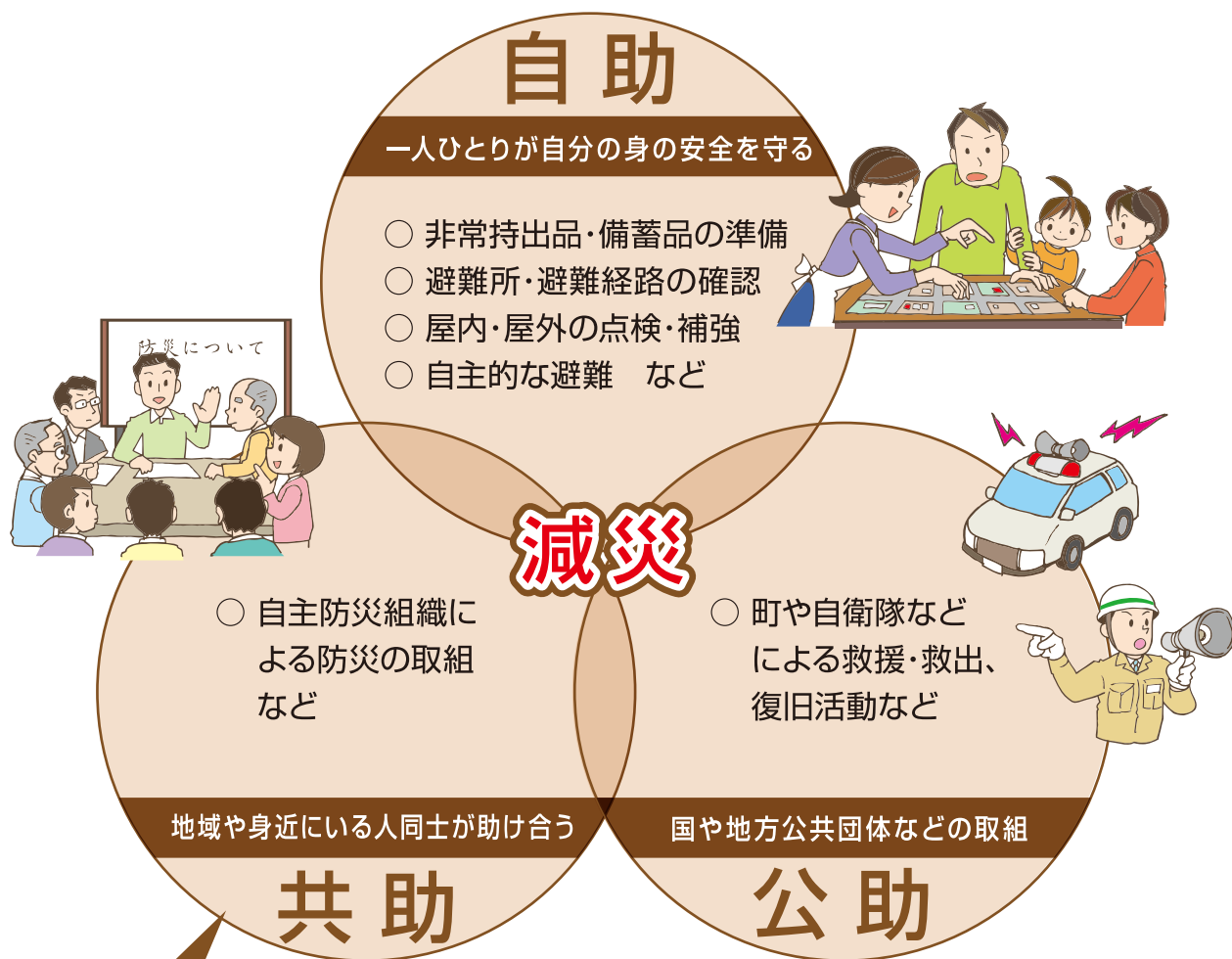
- 全体図・索引図・避難所一覧
- ①秋田地区（100年に1度の大雨）
- ②境野・置戸地区（100年に1度の大雨）
- ③置戸地区（100年に1度の大雨）
- ④置戸市街地区（1000年に1度の大雨）
- ⑤秋田地区（1000年に1度の大雨）
- ⑥境野・置戸地区（1000年に1度の大雨）
- ⑦置戸地区（1000年に1度の大雨）
- ⑧置戸・勝地区（1000年に1度の大雨）
- ⑨勝山地区（1000年に1度の大雨）
- ⑩勝山地区（1000年に1度の大雨）

まず「自分で」「地域で」対策を！

町が全ての被災者をすぐに支援できない場合に備えましょう

一人ひとりの取り組みが大切です

災害の被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」の取組が不可欠です。
この3つの連携が円滑なほど、被害は軽減できます。



自主防災組織は、自治会などの自治組織を単位に結成され、「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯感に基づき、災害による被害の予防・軽減など、地域ぐるみで災害に備える活動を行う組織です。各自治体組織で地域を守る自主防災組織をつくり、活動に参加しましょう。

要配慮者への気遣い

要配慮者とは、高齢者、障がい者、乳幼児など、災害時に特に配慮を必要とする方のことをいいます。また、要配慮者のうち、災害時に自ら避難することが困難であり、特に支援を必要とする方を避難行動要支援者として位置付けています。避難情報発令時には地域ぐるみで助け合い、要配慮者・避難行動要支援者の避難支援をしましょう。

「難」を「避ける」4つの「避難」行動



いざという時の「避難」行動は、どの行動にするか、決めておきましょう。

指定の避難場所への立ち退き避難

自ら携行するもの
・マスク
・消毒液
・体温計
・スリッパ
など



安全な親戚・知人宅への立ち退き避難

事前に災害時に避難する相談をしておきましょう。
※ハザードマップで安全かどうか確認してから相談しましょう。



安全なホテル・旅館への立ち退き避難

通常の宿泊料が必要です。事前に確認・予約しましょう。
※ハザードマップで安全かどうか確認しましょう。



屋内安全確保

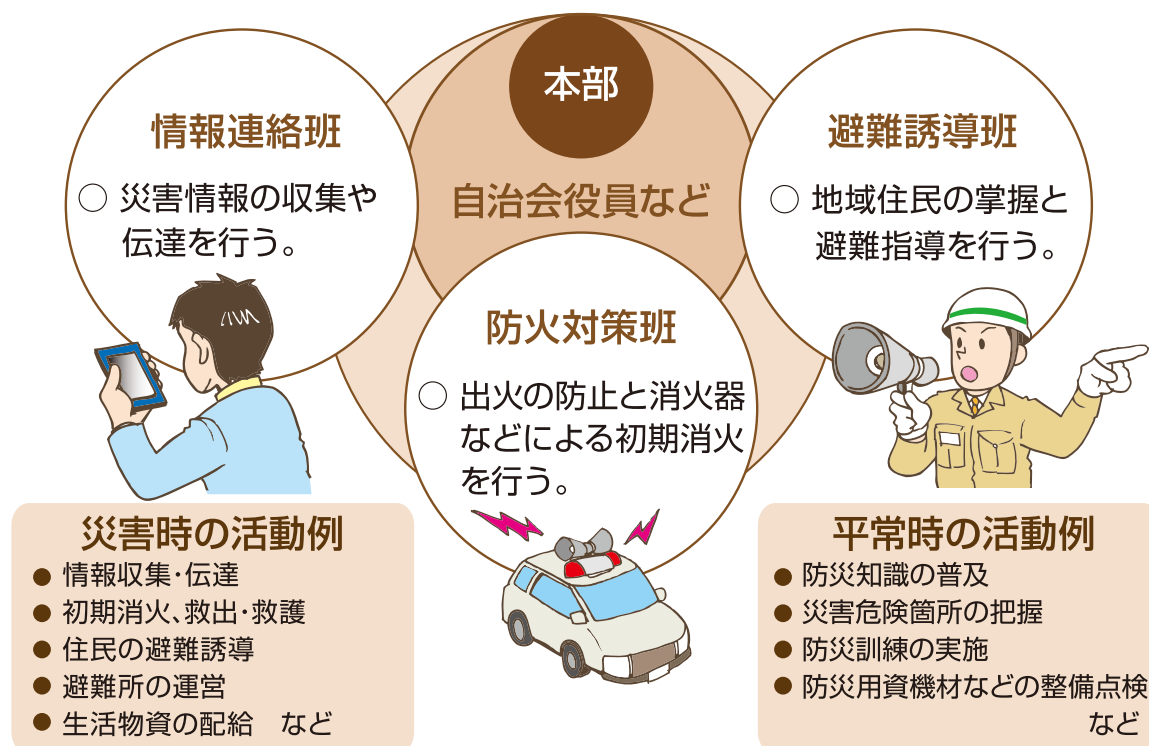
ハザードマップ等以下の「3つの条件」を確認し、自宅にいても大丈夫か確認しましょう。
※土砂災害危険区域では立ち退き避難が原則です。



「3つの条件」が確認できれば自宅に留まり安全確保も可能です。

- ①被害想定区域に入っていない…ハザードマップの災害想定区域と自宅の場所を確認
- ②浸水深より居室が高い……………ハザードマップを確認 例：3m以上で2階も浸水被害
- ③水・食糧等備えが十分にある…水道・トイレ・電気・ガスが数日使用できなくても大丈夫か確認

自主防災組織の体制例



行政機関から提供される防災情報

令和3年度の災害対策基本法の改正から避難勧告は廃止され、避難指示(警戒レベル4)で必ず全員が避難することになりました。

下記の表を参考にいざという時の参考に命を守る行動をとりましょう。

警戒レベル	防災気象情報 警戒レベル相当情報(例)	避難情報等	住民がとるべき行動
警戒レベル 5 災害発生 又は切迫	氾濫発生情報、 大雨特別警報等 (国土交通省、気象庁、 都道府県が発表)	緊急 安全確保 ※1	<u>発令を待ってはいけません！</u> 既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動 を取り ましょう。
警戒レベル4までに必ず避難！			
警戒レベル 4 災害の おそれ高い	氾濫危険情報、 土砂災害 警戒情報 (国土交通省、気象庁、 都道府県が発表)	避難指示	<u>全員避難！</u> 速やかに避難先へ避難 しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険 だと思われる場合は、近くの安全な 場所や、自宅内のより安全な場所に 避難しましょう。
警戒レベル 3 災害の おそれあり	氾濫警戒情報 大雨・洪水警戒 (国土交通省、気象庁、 都道府県が発表)	高齢者等 避難 ※2	<u>高齢者などは避難開始！</u> 避難に時間を要する人(高齢者の 方、障害のある方、乳幼児等)とそ の 支援者 は避難をしましょう。 その他の人は、避難の準備を整え ましょう。
警戒レベル 2	大雨・洪水・高潮 注意報 (気象庁が発表)		避難に備え、ハザードマップ等により、自らの 避難行動を確認 しましょう。
警戒レベル 1	早期注意情報 (気象庁が発表)		災害への心構えを高めましょう。

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

置戸町から出す避難情報

避難に関する避難情報と取るべき行動

避難情報	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保※
取るべき行動	要配慮者や避難行動要支援者など避難をするのに時間を要する方やその支援をする方は避難を始めてください。その他の方も避難の準備を始めてください。 	ただちに全員、避難所に避難を開始してください。 	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動を取ってください。  ※必ず発令されるものではありません。
	要注意		危険 直ちに命を守る行動を!

ポイント!

自主避難について：危険を感じたら、自分の判断で避難することも大切です。避難前に役場に避難所を確認してください。

非常持出品・備蓄品

定期的に確認しましょう

非常持出品は、避難するときに必要なものをリュックサックに詰めておき、いつでもすぐに持ち出せるようにしましょう。

備蓄品は、災害直後から数日間、自足するためのものです。食品等は定期的に入れ替えましょう

非常持出品(例)	点検日
☒ 貴重品(預金通帳、印鑑、保険証、免許証)★	/
☒ 携帯電話、充電器★	/
☒ 常備薬、お薬手帳★	/
☒ メガネ・コンタクトレンズ・保存ケース・保存液★	/
☒ 生理用品、紙おむつ★	/
☒ 粉ミルク、哺乳瓶、離乳食★	/
☒ 非常食3日分程度(乾パン・缶詰・栄養補助食品・チョコレート・飲料水など)	/
☒ 懐中電灯、携帯ラジオ、予備の乾電池	/
☒ ヘルメット、防災ずきん、軍手	/
☒ 長袖、長ズボン	/
☒ 下着、靴下	/
☒ タオル	/
☒ 救急セット	/
☒ 防寒用ジャケット、雨具	/
☒ ライター、マッチ、ナイフ	/

★印は、緊急時であっても最低限持つべきものです。

備蓄品(例)	点検日
☒ レトルト食品、インスタントラーメン	/
☒ アルファ米(ごはん、おかゆなど)	/
☒ 飲料水(1人1日3ℓ)	/
☒ 給水用ポリタンク	/
☒ 紙皿、紙コップ、割り箸	/
☒ カセットコンロ、カセットガスボンベ、ランタン	/
☒ ラップフィルム※お皿に敷くと洗う必要がない	/
☒ ティッシュペーパー、ウエットティッシュ	/
☒ 簡易トイレ、水のいらないシャンプー	/
☒ ビニール袋 ※雨具、敷物、簡易トイレとしても使用可能	/
☒ ロープ、工具セット ※救助活動用	/
☒ ポータブルストーブ(電池式)	/
☒ 毛布	/
☒ ほうき、ちりとり ※瓦礫などの除去用	/
☒ 長靴 ※瓦礫などからの保護用	/

洪水や土砂災害といった風水害は 大雨や長雨により起こります

大切なこと

- ✓ 日頃から気象情報を見て、天候の変化に注意しましょう。
- ✓ 屋外と屋内の大雨・強風対策をしましょう。
- ✓ 浸水時など状況によっては建物内に待機するほうが安全な場合もあります。状況により判断しましょう。

気象庁から発表される情報を知りましょう



危険を知り、正しく判断するために、気象情報等について知っておきましょう。

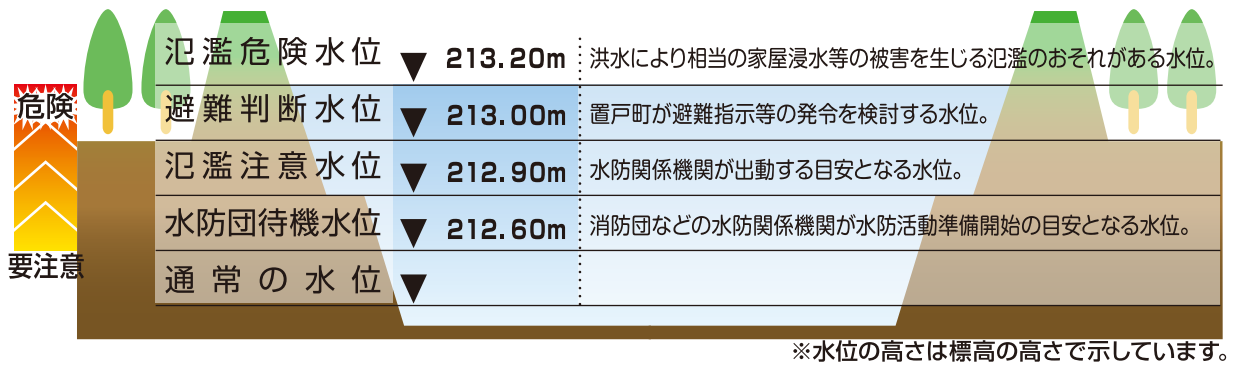
● 雨と風の強さと降り方

やや強い雨 1時間に 10mm以上 20mm未満	強い雨 1時間に 20mm以上 30mm未満	激しい雨 1時間に 30mm以上 50mm未満	非常に激しい雨 1時間に 50mm以上 80mm未満	猛烈な雨 1時間に 80mm以上
ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。
要 注 意				危 険
やや強い風 平均風速 10m/s以上 15m/s未満	強い風 平均風速 15m/s以上 20m/s未満	非常に強い風 平均風速 20m/s以上 25m/s未満		猛烈な風 平均風速 30m/s以上
風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	転倒する人も出る。看板やトタン板が外れ始める。高所での作業は極めて危険。	つかまっていけないと立っていられない。飛来物で負傷するおそれがある。		屋外での行動は極めて危険。

● 土砂災害

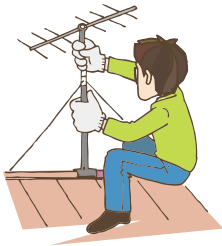
土石流	がけ崩れ	地すべり
山腹や川底の石、土砂が雨によって一気に押し流される。 前兆 ● 山鳴りがする。 ● 川が濁り流木が混ざる。 ● 川の水位が下がる。	斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震などでゆるみ、突然崩れ落ちる。 前兆 ● がけ面から小石が落ち、裂け目ができる。 ● がけから水がわき出る。	斜面の一部や全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと移動する。 前兆 ● 地面にひび割れや陥没ができる。樹木が傾く。

● 常呂川の危険水位（置戸観測所）



被害をおさえる事前対策をしておきましょう

- ☒ 屋根、塀などの点検・補強をする。



- ☒ ゴミや土砂を取り、排水しやすくする。



- ☒ 風で飛ばされそうなものは室内や物置へ。



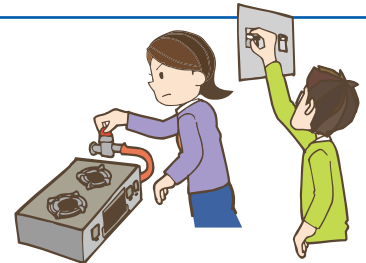
- ☒ 窓が割れないようにフィルムを貼る。



命を守るため注意して避難しましょう

避難する前の注意点

- ☒ 気象情報や町からの最新情報を入手する。
- ☒ 非常持出品を点検し、避難所を確認する。
- ☒ 安全に避難所まで避難できるルートを確認する。
- ☒ 避難前にはガスの元栓を締め、ブレーカーを落とす。



避難するときの注意点

- ☒ 気象警報などが発表されなくても、危険を感じたら早めに避難する。
- ☒ 避難は複数人で、基本は徒歩で行う。
- ☒ 浸水している場所は、棒で確認しながら側溝や水路に注意する。
- ☒ 子どもはロープなどでつなぎ、はぐれないようにする。



- ☒ 長靴での避難は避け、履き慣れた靴で行動する。



- ☒ 浸水の状況によっては、頑丈な建物の2階以上へ避難する。



- ☒ 気象警報や気象注意報が解除されるまで、警戒を続ける。



暴風雪の時は安全を第一に考えた行動をとりましょう

大切なこと

-  気象情報で暴風雪警報が発表された場合は警戒してください。特に「数年に一度の猛ふぶき」「外出は控えて」などの言葉があれば厳重に警戒してください。
-  暴風雪のときは外出しないことが最も安全です。普段から家の中で安全に過ごせる準備をしましょう。

気象情報から危険な状況を知りましょう

気象情報等について知っておき、正しく判断しましょう。

● 気象情報と危険状況

- ☒ 低気圧から起こる

発達した低気圧の通過や強い冬型の気圧配置の時に発生することが多い。

● 雪の危険

- ☒ 吹きだまりによる立ち往生の危険
- ☒ 給排気口が塞がると一酸化炭素中毒の危険
- ☒ 視界不良による歩行困難、低体温症の危険



被害をおさえる事前対策をしておきましょう

● 日頃の心がけ

- ☒ 悪天候が予想されるときは最新の気象情報や道路情報などを十分に確認する。
- ☒ 暴風雪が予想されるときは無理をせず外出を避ける。
- ☒ 給排気口が塞がらないよう除雪を行い、換気に注意する。

● 車への備え

車に備えるもの(例)	点検日
☒ 防寒着、長靴、手袋、毛布など	/
☒ スコップ、けん引ロープ、ブースターケーブル	/
☒ 飲料水、非常食など	/
☒ 十分な燃料	/
☒	/



緊急時の連絡先

警察 ☎110 JAFロードサービス
☎ #8139
消防 ☎119 (車の故障・不具合・レッカー移動など)

命を守るため注意して安全確保しましょう



● 歩行中や屋外にいるとき

- ☒ 建物の中の安全な場所へ移動して天気の回復を待つ。
- ☒ 歩行中は風で飛ばされてくるものに注意する。
- ☒ 肌の露出を少なくし、体温が低下しないようにする。



● 家の中にいるとき

- ☒ 給排気口が塞がれていないか確認する。
- ☒ 出入口を確保するため、吹だまりの状況を見て除雪する。

● 車を運転しているとき

視界が悪くなったとき

- ☒ 運転を続けず道の駅やコンビニなどで天気の回復を待つ。
- ☒ 気象情報や道路情報を確認する。

立ち往生したとき

- ☒ 後続車からの追突を防ぐためにハザードランプをつけ、停止表示板を置く。
- ☒ JAFなどのロードサービスや近くの店・家に救助を求める。
- ☒ 避難できる場所や救助を求められる先がない場合は警察・消防に救助を求める。
- ☒ 携帯電話から警察(110番)に電話すると、ある程度の自分の位置情報を伝達でき、GPS機能がついている場合、GPSをONにして電話をする。

車内で救助を待つとき

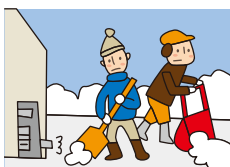
- ☒ 原則はエンジンを停止する。毛布や新聞紙などで体温の低下を防ぐ。
- ☒ 防寒などで止むを得ずエンジンをかける場合は排気口が埋まらないよう注意する。
- ☒ 窓を開けていても一酸化炭素中毒の危険はあるので注意する。



他にもある雪の被害

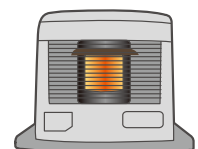
● 除雪中の事故に備える

- ☒ 屋根の除雪作業は2人以上で行い、命綱・携帯電話を身に付ける。
- ☒ 屋根からの落氷雪、転落などの事故に注意する。



● 停電に備える

- ☒ 非常用持出品の置き場所を決めておく。
- ☒ 防寒具やポータブルストーブ(電池式)など寒さ対策をする。



いつ起こるかわからない地震に 日頃から備えておきましょう

大切なこと

- ✓ 大地震による死亡原因の多くは家屋の倒壊です。家の耐震化や、壁・塀などの状況を見直し、補強対策を行いましょう。
- ✓ 家具の固定状況や配置、家の避難経路を確認し、倒壊の危険がないか見直しましょう。
- ✓ 揺れが起きたときにどのように行動すればよいか想定しておきましょう。

揺れの強さを事前に知っておきましょう

● 揺れの強さ

震度3	震度4	震度5弱	震度5強	震度6弱	震度6強	震度7
大半が揺れに気付く。	大半が揺れに驚く。	物につかまりたいと感じる。	行動に支障が出る。	立っているのが困難。	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れに翻弄(ほんろう)され、動くこともできず、飛ばされることもある。	
						

被害をおさえる事前対策をしておきましょう

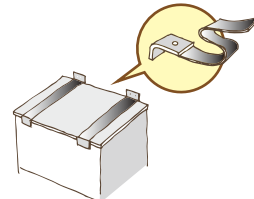
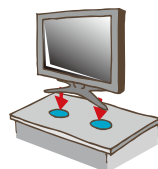
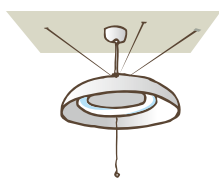
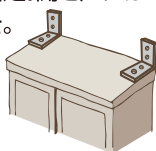


● 家屋・室内の安全対策

- ✓ 耐震診断を受け、必要に応じて補強する。
- ✓ 壁や塀にひび割れなどがないか確認する。
- ✓ 家具が倒れても安全な配置になっているか見直す。
- ✓ 出入口は物が倒れても通れるように見直す。



- ✓ タンスは床側にストッパーで、天井側はポール式器具で固定。食器棚はL字金具やワイヤーで壁に固定。開き戸には留め具を。
- ✓ 複数のチェーンで天井にとめて固定する。
- ✓ 粘着マットを敷いて転倒を防ぎ、裏側をワイヤーなどで壁やテレビボードに固定する。
- ✓ 裏側をワイヤーなどで壁に固定する。



命を守るため迅速に避難しましょう



● 緊急地震速報～地震発生

☑ 家では丈夫な机の下など、安全な場所に避難する。



☑ 運転中はハザードランプを点灯し、緩やかに速度を落とす。道路の左側に停止し、エンジンを切る。



☑ 施設内では係員の指示に従う。あわてて出口に走らない。



☑ 外にいるときはブロック塀の倒壊、看板やガラスの落下に注意。



● 地震発生後

☑ スリッパなどをはき、転倒した家具やガラスの破片などに気を付ける。



☑ 揺れが収まったら火の始末をする。



☑ 窓や戸を開け、出口を確保する。



☑ テレビ、ラジオ、役場などの情報から正しく状況を把握する。



☑ 自宅の安全を確認後、近所にも声をかけて安否を確認する。



☑ 危険が迫っていると判断した場合は避難する。

☑ 避難は徒歩で行い、持ち物は背負える範囲にする。



☑ 近隣住民で協力して消火活動や救護活動を行う。

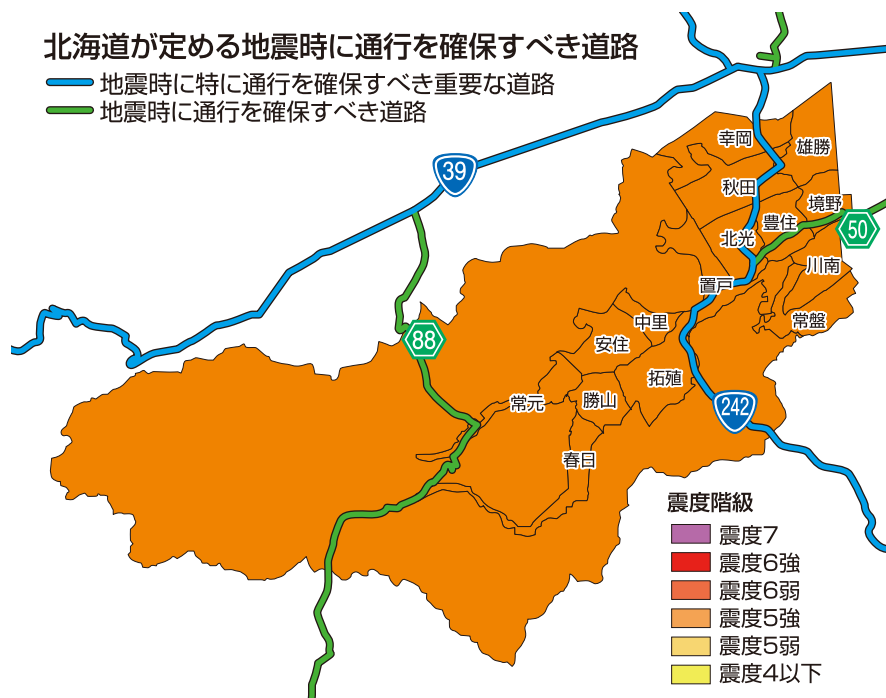


揺れの強さを事前に知っておきましょう

揺れやすさマップは、地震時の地盤の揺れやすさを地域ごとに震度で表したものです。

右のマップは、震度6弱(マグニチュード6.9の直下型)の地震を想定しています。

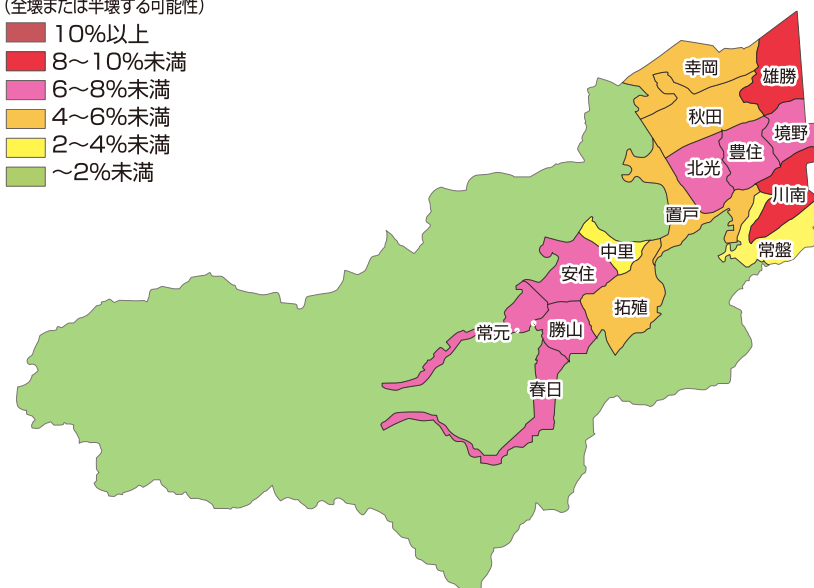
- 地震時に特に通行を確保すべき重要な道路
- 地震時に通行を確保すべき道路



危険度マップは、地震により発生する建物の全壊する割合を地域ごとに色で表したものです。危険度の数値が大きくなるほど建物が受ける被害の割合が大きくなります。

右のマップは、震度6弱(マグニチュード6.9の直下型)の地震を想定しています。

 10%以上
 8～10%未満
 6～8%未満
 4～6%未満
 2～4%未満
 ～2%未満



防災情報を入手しましょう！

● テレビから入手する方法

- 1 デジタル放送でNHK(チャンネル「3」)に合わせる
- 2 リモコンの **d** ボタンを押す(データ放送が表示)
- 3 リモコンの **赤** **青** **緑** ボタンで
見たい情報を選択する

入手できる情報

- 赤** ボタン→ 気象情報、
警報注意報
- 青** ボタン→ 最新地震情報
- 緑** ボタン→ 地震・津波情報

ポイント！

地域設定をしておく、設定している市町村の天気予報や防災情報が常に表示されます。
地域設定はお住まいの地域の郵便番号等で設定できます。

● 「情報メールおけと」を利用する方法

- 1 下記アドレスに空メールを送信(タイトル・本文は空欄)
touroku@i.town.oketo.hokkaido.jp
- 2 数分で仮登録メールが届く(この段階では未登録)
- 3 仮登録メールの本文に書かれているアドレスにアクセス
- 4 「登録する」にアクセス
- 5 登録完了画面が表示(手続き完了)

入手できる情報

- 災害状況などの緊急情報
- 暮らしの情報
- イベント情報

ポイント！

右のQRコードからもアクセスできます。



● 携帯電話・スマートフォンから入手する方法

気象庁ホームページ

レーダー観測などを基に降水、雷、竜巻の予報を提供 (レーダー・ナウキャスト) <http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>
局地的に短時間で降る雨の予測を30分間隔で提供 (降水短時間予報) <http://www.jma.go.jp/jp/radame/>
指定河川の水位又は流量を示した洪水予報を提供 (指定河川洪水予報) <http://www.jma.go.jp/jp/flood/>

北海道土砂災害警戒情報

土砂災害による被害の防止・被害の軽減のための情報を発表している。 <http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/>

川の防災情報

リアルタイム雨量・水位の情報を提供。水防警報、洪水予報やダム放流通知。 <http://www.river.go.jp/kawabou/jpTopGaikyo.do>

北海道地区道路情報

道路通行止め実施箇所を掲載。峠の現状をカメラ映像で見ることができる。 <http://info-road.hdb.hkd.mlit.go.jp/>

北海道の道路情報総合案内サイト 北の道ナビ

道路交通情報・気象情報・防災情報などが総合的に掲載されている。 <http://northern-road.jp/navi/>

北海道防災情報

北海道において発令されている
防災情報を提供



(パソコン/スマートフォン)

<https://www.bousai-hokkaido.jp/>



(携帯電話)

<http://i.bousai-hokkaido.jp/>

防災メモ

ご家族の皆さんで話し合い、書き込んでおきましょう。

● 避難所

● 集合場所

● 家族・親戚・知人の連絡先・避難先

氏 名	生年月日	血液型	既往症	会社・学校(電話番号など)	避難先

● 医療機関・緊急連絡先など

病院名・機関名	電話番号	病院名・機関名	電話番号

● 避難時の服装

- | | |
|---|--|
| ☒ ヘルメット | ☒ 軍手 |
| ☒ タオル | ☒ 長ズボン |
| ☒ リュックサック | ☒ 履き慣れた靴 |
| ☒ 長袖の上着 | |



火災・救急の時は
緊急通報

☎119

災害時の連絡は「災害用伝言ダイヤル」で！

☎171

災害発生時に利用できます。「171」後はガイダンスに従って録音・再生を。

録音 171+1+ 自分の家の電話番号
(市外局番から)

再生 171+2+ 自分の家の電話番号
(市外局番から)



置戸町役場

〒099-1100 北海道常呂郡置戸町字置戸181番地

ホームページ <http://www.town.oketo.hokkaido.jp/>

TEL 0157-52-3311 FAX 0157-52-3353